

### 【為替相場の影響】

現在の日本の金融政策は、金融緩和による国債金利の低下から過度な円安となり、日銀のETF買入（日経平均に連動する株式の間接保有）と、外国/輸出関連企業を材料に日経平均株価が最高値を更新し、投資家を優先した仕組みを継続しています。

一方、日本の外需依存度は低く（内需が大きく）、資材や燃料の多くを輸入しているため、コストプッシュ型のインフレが国内/輸入企業を圧迫しています。日本のドル換算の名目GDPがドイツに抜かれて4位になったことも円安による影響と言われています。

ユーロ円

SBI証券 ホームページより



左表は 2019 年頃からのユーロ/円相場です。

1 ドル 150 円などニュースになりますが、ドルは割と上下があるため対処のしようがある一方、ユーロはご覧の通り、下がることなく円安が続いており、年々円安度合いが加速しているようにも見えます。

1 年ごとの大まかな変動は下表の通りです。

	ユーロ/円 (前年比)
22 年 3 月	134 円
23 年 3 月	143 円 (▲6.7%)
24 年 3 月	161 円 (▲12.6%)

仮に 1 球のユーロ価が同じでも円単価はその分、高くなってしまいます。

2024 年南半球産は、現地のインフレと 23 年オランダ産の欠品の影響で、世界需要の強い白を中心に卸価格も上昇しています。弊社では、関係する輸出会社各社に日本の切実な事情を丁寧に説明し、ある程度の譲歩をお願いしつつ、施設や物量を活かしたコスト抑制や為替管理など、少しでも良い条件でお客様に球根をお届けできるよう努力を続けて参ります！

### 【オランダ産新球の入荷時期と南半球産の抑制の活用 (弊社は 11 月まで冷凍賃無料!!)】

23 年オランダ産は収穫の大幅な遅れに加え、紅海(スエズ運河)での商船襲撃を受けアフリカ喜望峰経由に航路を切替えたため、日本への到着が大幅に遅れました。来年の今頃までこの状況が続いていないことを祈りますが、近年の気候変動の影響は日本同様、オランダでも年々強まり、球根生産者が大型化してきた経緯も含め、改善要素もあまり見当たりません。

12 月～2 月までの輸入球数は、前年比 83.5%(▲16.5%)でした (ホームページ掲載の植物検疫統計をご参照下さい)。弊社の納品実績(全交配系統合計)では、3 月上旬の南半球産比率は約 3 割となっています。よろしくお願いいたします。以上